

よみがえる文化財

美術品修復の現場から



吉備国際大教授
馬場 秀雄氏

なりません。しかし、巻物などを置いて巻物・掛けに仕立てることで収納時に巻かれるため、画面が直接空気に触れることを防ぎます。また、「巻く」という行為により、画面へのストレスが緩和され、巻き込まれた空気は画面を保護してくれます。

◆品格・保存の両立

日本の膠絵・書は作品（本紙）をそのままの状態で見るとは無く、「巻物」を巻く、すなわち画面（本紙）の周りに裂ものは極端に言えば点接着で画面に固定されています。したがって、絵の具は直接空気に触れ、光に晒されることになり、退色や変色、劣化の原因と

念が飾られた茶室に座る若き日の筆者。東京都の野村美術歴史記念茶室（1993年10月）



例えは、茶室の床の間に掛けられた懸額や和歌の掛け軸を鑑賞することを通じて、日本人が持つ、ものあわれや幽玄、侘

◆後水尾天皇の美意識
写真の曹洞宗大本山総持寺祖院（川奥門前町）に伝わった後水尾天皇の和歌に用いられた裂地の取り合わせは、豪華な王朝趣味な表装ですが、「揉みから紙」や裂地が依頼が来ました。修復過程で野村美術館の古賀建蔵先生（古賀茶道研究所所長）が鬼ええら、この後水尾天皇がお好みの表装です。ほかにも何点かあると思われる、と指摘され、修復についていくつかの指導をしていただきました。

翌年、富内庁書政部に伺い御物と同じ取り合わせの和歌表装を拝見する機会を得ました。後水尾天皇の優れた美意識、感動するといえます。古賀先生の深い見識、頭が下がります。先方へ伝えられたなかでは、古賀茶道研究所の研修や講義、「表装大業西冊」編纂の手伝いなどが懐かしみ思い出されます。

膠絵・書を「着物」で装う



修復前の後水尾天皇筆の和歌。使用された裂地が素晴らしい

本式の家應には、座敷が、あ、そこには膠絵や書が掛けられています。花入れには季節の花が飾られる「床の間」という、美術品を鑑賞する特別な場所を中心とした、世界には類を見ない座敷文化が展開されてきました。余情風月の世界に遊ぶ、美しい日本の心を育んで来ましたが、住宅や生活の洋風化で失われつつあり、とても残念です。

◆茶の湯の中心・掛け軸
草庵や書院に美術品を道具として取り合わせ、これを鑑賞しながら、主客とも茶を飲み、文

きび ぽっきーを逆か、お悩みの入りの鉛筆は、小まなまるで使うなど、キッポー代も願掛けをする受験生心理は変わらぬようです。▼22日は折願の棄子日です。貞良 大学入試センター試験。 かん心に必勝 祈願文字を、のはせる人も、朝から母親が作ったカツ丼で勢いづける人も、自分の願掛けと力を信じて奮をつかんでほしいものです。

【横山三加子】



◆後水尾天皇の美意識
写真の曹洞宗大本山総持寺祖院（川奥門前町）に伝わった後水尾天皇の和歌に用いられた裂地の取り合わせは、豪華な王朝趣味な表装ですが、「揉みから紙」や裂地が依頼が来ました。修復過程で野村美術館の古賀建蔵先生（古賀茶道研究所所長）が鬼ええら、この後水尾天皇がお好みの表装です。ほかにも何点かあると思われる、と指摘され、修復についていくつかの指導をしていただきました。

翌年、富内庁書政部に伺い御物と同じ取り合わせの和歌表装を拝見する機会を得ました。後水尾天皇の優れた美意識、感動するといえます。古賀先生の深い見識、頭が下がります。先方へ伝えられたなかでは、古賀茶道研究所の研修や講義、「表装大業西冊」編纂の手伝いなどが懐かしみ思い出されます。